

平成16年度

# 福岡アジア美術館年報

Fukuoka Asian Art Museum Annual Report 2004

平成16年度

# 福岡アジア美術館年報

Fukuoka Asian Art Museum Annual Report 2004

## 目次

■ 展示事業	
1 特別企画展	06
2 小企画展	10
3 コレクション展	12
■ 交流事業	
1 招聘事業	14
2 地域交流イベント	17
3 ボランティア活動	18
4 広報活動	20
■ 新所蔵作品	22
■ 入場者数	26
■ 活動記録	28
■ 概要	
1 基本理念	30
2 活動内容	31
3 施設概要	32
4 沿革	36
■ 名簿	38

展示事業



「シルクロードの装い」～パリ・コレに花開いた遊牧の民の美～



会期 2004年7月3日(土)～8月24日(火)  
 会場 企画ギャラリー  
 主催 福岡アジア美術館、NHK九州メディス、西日本新聞社  
 主後 福岡アジア美術館、NHK九州メディス、西日本新聞社  
 援 アフガニスタン大使館、ウズベキスタン大使館、英国大使館商務部、カザフスタン大使館、フランス大使館、ベルギー大使館、プリティッシュ・カウンシル、NHK福岡放送局、福岡商工会議所  
 協力 情報工房  
 開催日数 46日  
 観覧者数 10,174人  
 出品点数 パリ・コレクションのデザイナーによるモード作品29点  
 伝統的な衣装、染織品288点

シルクロードの途上にある中央アジア地域は、古くから東西の文化が交流する場であり、独特の華やかな衣装と染織の文化も展開されてきた。1970年代以降、日本を含めた世界各国のファッションデザイナーたちは、これらの伝統染織に強い関心を持ち、作品に取り入れるようになった。そして、1991年のソビエト連邦解体後、中央アジア地域が諸外国に門戸を開くと、デザイナーたちの伝統染織への関心はさらに高まり、パリ・コレクションという舞台上でフォークロア・ファッションとして花開いた。

本展では、その先導役を担ったジョン・ガリアーノをはじめ、パリ・コレクションで活躍するドリス・ヴァン・ノッテン、イザベル・マランなどの最新モード作品と、その発想のルーツとなった中央アジアの民族衣装との両方を紹介。グローバル化した現代社会ならではの、異文化の融合がもたらす新たな美の可能性を探った。

- 関連事業 □ギャラリー・トーク  
 7月3日(土) 10:15～12:00  
 講師: 中上正美子(インディペンデント・キュレーター)  
 会場: 企画ギャラリー内
- 講演会 「パリ・コレクションにみる民族衣装」  
 7月3日(土) 14:00～15:30  
 講師: 横田尚美(文化服装学院専任講師)  
 会場: あじびホール

図録発行 NHKきんきメディアプラン  
 ポスター B2 デザイン: 山口紗輝  
 チラシ A4 デザイン: 山口紗輝

- 関連記事  
 2004. 7.14 西日本新聞(朝) 「シルクロードの装い① 自由と伝統を求めて」  
 2004. 7.15 西日本新聞(朝) 「シルクロードの装い② 嫁ぐ娘に贈った母心」  
 2004. 7.16 西日本新聞(朝) 「シルクロードの装い③ 月と水にあこがれて」  
 2004. 8. 5 岐阜新聞 「遊牧民の染織、鮮やか」  
 2004. 8. 5 日本海新聞 「現代に息づく遊牧民の染織」  
 2004. 8. 7 南日本新聞 「福岡で『シルクロードの装い』展 遊牧民の美 染織を堪能」  
 2004. 8. 8 長崎新聞 「現代に息づく遊牧民の染織」  
 2004. 8.11 神戸新聞 「現代に息づく遊牧民の染織」

チャイナ・ドリーム 描かれた憧れの中国——広東・上海



会期 2004年9月4日(土)～10月17日(日)  
 会場 企画ギャラリー  
 主催 福岡アジア美術館 西日本新聞社 TVQ九州放送  
 主後 文化庁 中華人民共和国駐福岡総領事館 福岡県日中友好協会 福岡市日中友好協会 (財)福岡市文化芸術振興財団  
 助成 芸術文化振興基金  
 協力 長崎ランタンフェスティバル実行委員会 ホテルオークラ福岡  
 開催日数 38日  
 観覧者数 9,304人  
 出品点数 252点

日本における中国美術の紹介は、主として清代以前の古い文物を通して行われてきた。また近年は、国際舞台でめざましく活躍する現代美術の作家に日本でも注目が集まっている。そうした中、本展は、中国の近代美術と大衆的な視覚文化までを視野にいたれ、これまで語られることのなかった中国の近代美術の一つの流れに光りをあてたもので、日本では初めての試みであった。

具体的には、18世紀に西洋人向けに制作された作品から、19世紀前半の西洋向け輸出用絵画である「チャイナ・トレード・ペインティング」、そして、その技法を引き継ぎ、香港や上海で制作された20世紀前半の商業ポスターとその原画、中華人民共和国時代になって制作されプロパガンダの役目も果たした「新年画」などを紹介。中国独自の文脈に即した近代美術の流れの一つを明らかにするとともに、それらの作品が、当時の西洋人、近代化を進める都市の人、政治家といった人々のまなざしと不可分に結びつきながら、その時代の異国趣味、商業性、政治色等の要素によって洗練されていくというアジア美術に普遍的な過程を呈示した。

なお、開館5周年記念展として開催した。

- 関連事業 □講演会  
 9月4日(土) 13:30～15:30  
 「西洋の影響と中国の受容～中国輸出用絵画から商業ポスターへ」  
 講師: ジョセフ・ティン(香港歴史博物館総館長)  
 会場: あじびホール
- 長崎ランタンフェスティバル・オブジェ展示  
 9月4日～10月17日  
 会場: 彫刻ラウンジ(7F)など
- 中国映画フェスティバル2004  
 9月23日～28日  
 会場: あじびホール
- 「中国茶のデモンストレーションとレクチャー」  
 10月10日(日) 14:30～、15:30～  
 講師: 由比康弘(中国茶専門店ゆい庵オーナー)

図録 A4 デザイン: 田嶋デザイン事務所CYAN  
 ポスター B2 デザイン: 田嶋デザイン事務所CYAN  
 チラシ A4 デザイン: 田嶋デザイン事務所CYAN

関連記事

- 2004. 8.19 西日本新聞(朝) 「本社の事業『チャイナ・ドリーム 描かれた憧れの中国—広東・上海』展 19—20世紀の近代美術たどる」
- 2004. 8.21 西日本新聞(付属誌エルル) 「『チャイナ・ドリーム 描かれた憧れの中国—広東・上海』展 レト口感漂う香水瓶や衣装など252点展示」
- 2004. 9. 4 西日本新聞(朝) ラワンチャイクン寿子「『チャイナ・ドリーム』 激動の時代 西洋人をとりにこに」
- 2004. 9. 5 西日本新聞(朝) 「中国への幻想 絵画に投影 チャイナ・ドリーム展開幕」
- 2004. 9.10 長崎新聞(朝) 「チャイナ・ドリーム 19—20世紀の中国近代美術展示」
- 2004. 9.17 毎日新聞(夕) 米本浩二「チャイナ・ドリーム展 俗な視線のたくましさ—中国近代 もう一つの顔—」
- 2004. 9.23 西日本新聞(朝) ラワンチャイクン寿子「チャイナ・ドリーム④ ジンノン『良き母』モダンガールから転身」
- 2004. 9.25 西日本新聞(朝) 堀川理沙「チャイナ・ドリーム⑤ ライ・チュン『若い男女』実は女性は男性だった」
- 2004.10. 3 読売新聞(朝) 「ギャラリー チャイナ・ドリーム展 民衆のあこがれと理想」
- 2004.10. 7 西日本新聞(朝) 「中国の近代美術『チャイナ・ドリーム展』 傍流の豊かな魅力」
- 2004.10.13 朝日新聞(夕) 西岡一正「夢と欲望映す大衆美術 福岡・新潟で『チャイナ・ドリーム』展」
- 2004.11.11 新美術新聞(No.1040) 「チャイナ・ドリーム 描かれた憧れの中国」
- 2004.12.21 西日本新聞(朝) 塩津健司、宇田懐「回顧2004 美術 目立つ『安定志向』 独自の視点 企画展も」
- 2005. 4 比較文学研究(東大比較文学会) 大嶋仁「チャイナ・ドリーム展」
- 2005. 5 美連協ニュース(No.86) 「チャイナ・ドリーム 描かれた憧れの中国—広東・上海『もうひとつの中国近代美術』心がけた平易な案内書、デザイン」

外国語記事

- 2004. 8.26 中文導報 向軒「圖片新聞」
- 2004.12 芸術世界 徐明怡「美術史-外的美術」

大唐王朝 女性の美



- 会 期 2005年1月2日(日)~2月20日(日)
- 会 場 企画ギャラリー
- 主 催 福岡アジア美術館、西日本新聞社、RKB毎日放送、中国文物交流中心準備室
- 後 援 外務省、文化庁、中国大使館、福岡県教育委員会、(財)福岡市文化芸術振興財団、福岡商工会議所、西日本鉄道、西日本リビング新聞社、CROSS FM、FM福岡、天神エフエム、LOVE FM、西日本文化サークル連合、西日本天神文化サークル
- 協 力 陝西省文物交流中心、日本航空、ヤマトロジスティクス株式会社
- 協 賛 西鉄旅行、ライオン
- 開 催 日 数 43日
- 観 覧 者 数 18,337人
- 出 品 点 数 91点

中国史上、とりわけ豪華な時代として知られる唐時代(618-907年)の美術を紹介。特に唐時代における芸術文化の華やかさを「女性」という視点で探り、中国唯一の女帝である則天武皇や、絶世の美女といわれた楊貴妃に代表される、王朝を動かした「女性たち」の装いを豪華な宝飾品や装身具で紹介し、また女性的な表現を見せる唐時代の仏像などもあわせて展示した。

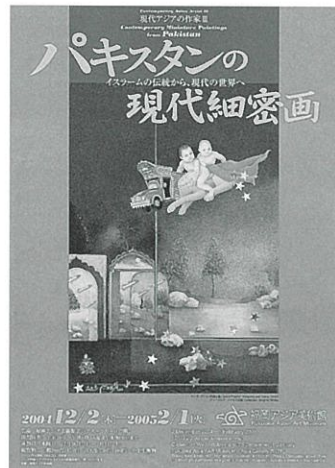
- 図 録 発 行 中日新聞社
- ポ ス タ ー B2 デザイン:マツダヒロチカデザイン事務所
- チ ラ シ A4 デザイン:マツダヒロチカデザイン事務所

- 関 連 事 業 オープニングコンサート「二胡が奏でる唐王朝の夢幻」  
1月2日(日) 11:00~、13:00~、15:00~

関連記事

- 2004.12. 2 西日本新聞(朝) 「本社の事業 華麗な楊貴妃の時代紹介 金銀器や陶磁器など170点」
- 2004.12.29 西日本新聞(朝) 「『大唐王朝 女性の美展』 来月2月開幕 華やかな宮廷世界描く170点準備終る」
- 2005. 1. 1 西日本新聞(朝) 「貴族生活彩る170点 『大唐王朝 女性の美』展 福岡市であすから」
- 2005. 1. 5 西日本新聞(朝) 「大唐王朝 女性の美展から1 仕女図 男装の麗人も天上界へ」
- 2005. 1. 6 西日本新聞(朝) 「大唐王朝 女性の美展から2 灰陶加彩女子立俑 『祈る姿』に似た素朴さ」
- 2005. 1.15 西日本新聞(朝) ラワンチャイクン寿子「大唐王朝 女性の美展 華麗に歴史彩る楊貴妃の時代」
- 2005. 1.16 西日本新聞(朝) 「一華咲ける楊貴妃の時代—大唐王朝 女性の美展」
- 2005. 1.16 西日本新聞(朝) 「24日にギャラリートーク 『生き方と美』テーマ 納富氏が出演」
- 2005. 1.18 西日本新聞(朝) 「大唐王朝女性の美展を見て《1》 田中みずきさん おおらかな成熟文化」
- 2005. 1.19 西日本新聞(朝) 「大唐王朝女性の美展を見て《2》 高野幸博さん 凛とした顔に品性が」
- 2005. 1.20 西日本新聞(朝) 「大唐王朝女性の美展を見て《3》 ルルさん 音楽の力に思いはせ」
- 2005. 1.22 西日本新聞(付属誌エルル) 「華麗なるファッションの変遷...来月20日まで福岡アジア美術館」
- 2005. 1.25 西日本新聞(朝) 「春秋」
- 2005. 1.29 西日本新聞(朝) 「博多人形師が唐の美を語る 大唐王朝 女性の美展」
- 2005. 2. 1 西日本新聞(朝) 「博多人形師の高野さん 唐代の俑の魅力を語る」
- 2005. 2. 5 西日本新聞(朝) 「『大唐王朝』展の図録を通信販売」

現代アジアの作家Ⅲ パキスタンの現代細密画



会 期 12月2日(木)～2005年2月1日(火)  
 会 場 アジアギャラリーB  
 開催日数 48日  
 観覧者数 7,396人  
 出品点数 約60点

細密画(ミニチュール)は、アジアにおいては、南・西アジアのイスラーム文化圏で写本装飾のために発展し、インド全域を統一したムガル朝時代(16～19世紀)に全盛を迎えた。その後、インドではその伝統は衰退したが、イスラーム国家であるパキスタンで、今日、新たな展開を見せている。ラホールのパキスタン国立芸術大学で学んだ作家たちが中心となり、伝統的な技法を受け継ぎながら、政治や戦争、核兵器など国家が直面している問題から、ジェンダーや家族関係など作者の身近な問題まで、今日的な主題を描き出している。また、平面的でありながら立体的に見える「だまし絵」的な画面を創り出すなど、造形表現においても新たな可能性を試みる作家が登場している。

現代のアジア作家を取り上げるシリーズの3回目となる本展では、今まさに成熟の時を迎えている現代細密画の世界を、ロンドンとフランスを拠点に活躍する美術史家ヴァージニア・ワイルス氏をゲストキュレーターに迎え、19作家約60点の作品で紹介した。

関連事業 □講演会  
 12月4日(土) 14:00～16:00  
 講師:ヴァージニア・ワイルス(美術史家、評論家)  
 会場:あじびホール

ポスター B2 デザイン:北澤俊明 (design POOL)  
 図録 A4 デザイン:北澤俊明 (design POOL)  
 チラシ A4 デザイン:北澤俊明 (design POOL)

関連記事  
 2004.12.19 読売新聞(朝) 「パキスタンの現代細密画 今日の問題への鋭い批判」  
 2005. 1. 8 西日本新聞(朝) 山木裕子「わが館の逸品 ヴィーナスの誕生」

外国語記事  
 Dec 04/Jan 05 May, Nicholas. "Contemporary Pakistan Miniatures Exhibition."  
 go-fubar. mag (Fukuoka)

アニメイト  
 アート横断Ⅲ AniMate。～日韓現代アートに見るアニメ的なもの～



会 期 2005年2月3日(木)～3月29日(火)  
 会 場 アジアギャラリーB  
 主催 福岡アジア美術館  
 助成 日韓文化交流基金(日韓共同未来プロジェクト)  
 協賛 資生堂  
 企画 ナンジョウアンドアソシエイツ  
 開催日数 45日  
 観覧者数 7,666人  
 出品点数 約40点

近年のアジアにおける映像、アニメーション、漫画、ファッション、建築などの様々な現代特有のメディアにおける視覚表現や、そのような表現をジャンルを越えて利用した現代美術を紹介するシリーズ展の3回目。今回は、マンガやアニメの領域を横断し、その表現の魅力を増幅させる日本と韓国の現代美術作品に焦点をあてた。娯楽マンガを大衆文化の象徴としてポップ・アートに流用した60年代とは異なり、90年代には、日韓どちらの国でも、マンガを原体験として育った現代美術の作家たちが新たな表現を生み出している。本展では、日本と韓国の作家7人と1組による作品、たとえばマンガのキャラクターを参照して新キャラクターを作り出したり、コマ割りや物語性をもつマンガに特徴的な表現方法を巧みに取り入れたり、さらにアニメーションの技法を用いた作品などを紹介。両国の現代美術に共通する文化的特徴を通じて、異文化間の相互理解をすすめることを目的とした。

関連事業 □アーティスト・トーク  
 2月3日(木) 午後6時～8時  
 参加作家: 会田誠/西山美奈コ/伊藤存/Mr./イ・ドンギ/44(Sasa)/ムン・キョンウォン  
 内容: 日本と韓国の出品作家たちによるスライドを用いた自分の作品の紹介など  
 会場: あじびホール

□講演会  
 3月5日(土) 午後2時～4時  
 講師: バク・シンウィ(慶熙大学教授、美術・文化マネジメント)  
 会場: あじびホール

□会田誠ドキュメンタリー映画  
 「near equal aida makoto ≡ 会田誠 ～無気力大陸～」上映  
 3月5日(土)  
 1回目 午後12時～1時40分  
 2回目 午後 4時～5時40分  
 会場: あじびホール

図録発行 A4: ナンジョウアンドアソシエイツ  
 ポスター B2 デザイン: 山下リサ  
 チラシ(ハガキ) デザイン: 山下リサ

関連記事  
 2005. 1.17 ART IT 原久子「ART IT PICKS」  
 2005. 2. 5 朝日新聞(夕) 西岡一正「日韓美術家とマンガ・アニメ さめた視点に宿る新感覚」  
 2005. 2.20 読売新聞(朝) 「見に来て! アニメと美術の融合」  
 2005. 3. 1 STUDIO VOICE 「いつもアニメが友達でした。」  
 2005. 3. 1 美術手帖 北澤ひろみ「アジアの視覚芸術に根付くアニメーション的要素と現代美術への浸透」p.86  
 2005.3.19 西日本新聞(朝) 五十嵐理奈「マンガとともに育った作家たち」

外国語記事  
 Mar/Apr 2005 "News Brief: Crossing Visions." Asian Art News (Hong Kong) : 22  
 Feb/Mar 2005 May, Nicholas. "Interview: Between Kawaii and Violence." go-fubar. mag (Fukuoka) : 5-7

## 展示事業 3 コレクション展

アジアギャラリー(A、B)では、所蔵品により、アジア美術の近代から現代への流れがわかる展示をおこなっているほか、2本の特設コーナーを設置し、2~6ヶ月ごとにテーマ展示を開催している。平成16年度の特設コーナーでは下記の展示を行った。

### 〔アジアギャラリーA〕

#### ひとのかたち—美術にみる身体表現

4月1日(木)~6月22日(火)

人体は、どのように象徴的な意味を与えられ、絵画や彫刻に表現されてきたのだろうか。人のからだの美しさを追求した近代の彫刻から、社会に強いメッセージを発する現代美術(絵画、彫刻、インスタレーション)までの幅広い作品を通してこの問題を探った。

#### 水中散歩—水・海をめぐる作品

6月24日(木)~9月28日(火)

巨大な水滴の像を投射することで、まるで水中にいるかのように錯覚させるキム・ヨンジン(韓国)の作品や、本物かと見まがう水の粒を描くキム・チャンヨル(韓国)など、7月19日の海の日にあわせて、水や波、海をモチーフにした作品を展示した。「海フェスタふくおか」関連事業。

#### 静謐なる革新—タイの現代美術

9月30日(木)~12月25日(土)

1980年代から今日までの代表的な作品から、静謐な表現の中に深い精神性を感じさせるタイの現代美術の世界を探った。

#### タン・チンクアン—青い夜

1月2日(日)~3月29日(火)

勢いあふれる立体作品から、作家自身の内面性を映す版画作品まで、マレーシアの若手アーティスト、タン・チンクアン(陳振權)の作品世界を紹介した。

### 〔アジアギャラリーB〕

#### アジア美術展ヒストリーⅡ 第2回展(1985年)

3月25日(木)~6月15日(火)

福岡市美術館で1980年から1994年までに過去4回開催されたアジア美術展は、同時代のアジア美術を包括的に紹介した画期的なものだった。シリーズ2回目の今回は、20年前に行われた第2回展に焦点をあて、当時の出品作品をはじめ、写真・報道資料や展覧会をめぐる評価を振り返りながら、開館5周年を迎えた福岡アジア美術館の今後を考えた。

#### あじび動物園

6月17日(木)~9月14日(火)

動物をモチーフにした作品を紹介。一見ほのぼのした内容ながら、動物をモチーフにした現代美術は、社会的な問題を映していることもしばしばある。チャチャイー・ブイピアの「うろうろ」(象)やジャン・ペイリー(張培力)「衛生」(ニワトリ)、ラギニ・ウパッダエ・グセラ「豚の口に乗るりんご」などを展示。

#### 新収蔵品展

9月16日(木)~11月30日(火)

新しく収蔵した作品を定期的に紹介するシリーズ。2002年度以降に所蔵品に加わった作品と、それ以前に収蔵しながら未陳であった作品をあわせて展示し、当館の収集活動の一端を紹介した。

交流事業



## 交流事業 1 招聘事業

本事業は、アジア各地で活躍する美術作家や研究者・学芸員等を3カ月間招聘し、様々な美術交流事業をおこなうことで、市民がアジアの美術・文化に対する興味を高め、理解を深める一助になることを目指すとともに、アジア美術を取り巻く状況の活性化を目的としている。

本年度は、4人の美術作家と2人の研究者を招聘したほか、1人の外務省長期青年招聘事業研修生を受け入れた。

## 美術作家招聘事業



レカ・  
ロドウィッティヤ  
(インド)

1958年生まれ。インド、バローダにあるM.S. 大学美術学部(絵画)を卒業後、ロンドンの王立美術大学院で修士号(絵画)を取得。

## 滞在期間

2004年5月11日～8月9日

オープンスペースである美術館の彫刻ラウンジにおいて、インドと日本の視覚表現を織り交ぜた6点の連作を制作した。作品の完成後は、3回の連続美術講座によってインド近代・現代美術の流れを紹介したほか、小学生を対象にした田川市美術館でのワークショップや各地の美術館見学など、精力的に活動した。

## □おもな活動

- 7月11、18、25日 一般市民を対象とした「連続美術講座 インド美術を巡る旅～モダニズムからポスト・モダニズムまで～」をあじびホールで開催。
- 7月22日 田川市美術館において小学生を対象にしたワークショップ「Myself & the Other—わたしとみんな—」をおこなう。
- 8月 7日 「第6回アーティスト・イン・レジデンスの成果展 パート1」をこの日から8月17日まで開催。初日は一般市民や支援者、交流した方々を前にアーティスト・トークを行なった。



ミョ・タン・アウン  
(ミャンマー)

1965年生まれ。ミャンマーの著名な画家たちに絵画を学ぶ。

## 滞在期間

2004年5月11日～8月8日

山岳民族の伝統衣装を着たミャンマーの人、そして博多区に住む人の肖像画などを驚くほど写実的な描法で克明に描いた。また、博多小学校の生徒を対象にしたワークショップでは、博多区に住む老人たちの肖像画を描くことで、世代が異なる人々との交流を創出した。

## □おもな活動

- 7月27日 博多小学校で児童を対象にしたワークショップを開催。近隣に住む老人をモデルに、画面いっばいに味のある肖像画を描いた。
- 7月30日 交流スタジオで前回参加した博多小学校の児童を対象に、写真を用いた写実的な肖像画の描き方を教えるワークショップを開催。
- 8月 7日 「第6回アーティスト・イン・レジデンスの成果展 パート1」を8月17日まで開催。初日は一般市民や支援者、交流した方々を前にアーティスト・トークを行なった。



リータ・  
マナダール  
(ネパール)

1978年生まれ。トリブヴァン大学美術学部を卒業。現在は、ギャングダヤ・バル・パティカ高等学校美術教師。

## 滞在期間

2004年5月18日～7月24日

あじびホール全体を使った大がかりなインスタレーション「希望の光」を構想。新聞紙と糊でモデリングされた巨大な鬼の顔のレリーフや50点をこえる肖像画などを次々と制作していったが、滞り途中で急遽帰国することになったため、インスタレーションは作家の指示を受けた美術館スタッフによって設置された。また、8月8日に予定していたネパールの巾着と首飾りを作るワークショップも中止した。

## □おもな活動

- 6月11日 インスタレーションに用いる肖像画を、美術館で出会った来館者をもとに描き始める。
- 7月15日 巨大な鬼の顔のレリーフを制作し始める。
- 8月 7日 「第6回アーティスト・イン・レジデンスの成果展 パート1」を8月17日まで開催。



ムン・キョンウォン  
(韓国)

1969年生まれ。ソウルの梨花女子大学を卒業後、同校とカリフォルニア芸術大学で修士号を取得。

## 滞在期間

2004年9月8日～12月8日

福岡でもっとも人通りの多い天神地下街や美術館近くの川端商店街でおこなわれた撮影では、博多工業高校の生徒をはじめ、多数の一般市民が出演し、これまでにない大がかりで福岡色の強い映像作品が完成した。また、成果展が始まった後も、福岡市役所1階にオープンした福岡市情報プラザや福岡アジア美術館で開催された「アニメイト。」展での作品展示、そして「アジアフォーカス・福岡映画祭2005」のポスター用原画の制作などで、多忙な日々を過ごした。

## □おもな活動

- 10月31日 天神地下街、川端商店街、福岡アジア美術館内において、本格的な撮影を行なう。これには博多工業高校の生徒と一般市民、約50人が出演した。
- 12月 4日 「第6回アーティスト・イン・レジデンスの成果展 パート2」をこの日から12月17日まで開催。初日には協力してくれた方々を前にアーティスト・トークを行なった。



研究者招聘事業



カンハ・シクナウォン (ラオス)

1957年生まれ。ラオスの国立美術大学を卒業後、ブルガリアのソフィア美術高等学院で修士号を取得。現在はラオス情報文化省文化研究所美術工芸部に勤務。

滞在期間

2004年9月7日～12月7日

日本の近代美術全般について研究したほか、アニメーションにも強い関心を持った。また、「第3回福岡アジア美術トリエンナーレ2005」ではラオス作家の調査に協力したり、親子を対象にしたワークショップでは伝統的な竹製ロケットを制作し、ラオス文化の紹介に努めた。

□おもな活動

- 10月28日 福岡アジア美術館をご訪問された皇太子殿下に、当館の所蔵品である自身の絵画作品「タートルアンのロケット祭り」について説明した。
- 11月28日 ワークショップ「親子でチャレンジ ラオスの竹製ロケットを作ろう!」を開催。竹製ロケットのミニチュアを制作するとともに、ラオスのロケット祭りや文化について紹介した。
- 12月 3日 ワークショップで制作した竹製ロケットや記録写真、水彩画などを彫刻ラウンジに展示。



アイリーン・リム (シンガポール)

1970年生まれ。シンガポール大学を卒業後、同校で修士号(文化地理学・美術)を取得。2000-05年、学芸員としてシンガポール大学付属博物館に勤務。

滞在期間

2004年9月9日～11月28日

当初の活動プランでは中国の現代美術を調査・研究する予定だったが、2006年にシンガポール大学付属博物館でメディア・アートの展覧会を開催する可能性が出てきたため、この機会に日本のメディア・アートを調査することになった。滞在中は福岡市内はもとより、山口、東京のメディア・アート関係者にインタビューし、調査をおこなった。また、一般市民向けの美術講座では、ヨーロッパ人によって描かれた風景画を通して、シンガポールの歴史と文化を紹介した。

□おもな活動

- 11月27日 一般市民を対象とした美術講座「19世紀マレー半島の水彩画～ヨーロッパが見つけたマレー半島～」をあじびホールで開催。



受入支援研究者



グエン・マイン・ハイ (ベトナム)

1978年生まれ。ハノイ工科大学有機化学科卒業。2001年から保管・陳列管理室専門官としてベトナム国立美術館に勤務。2004年9月に外務省長期青年招聘事業研修生として来日し、日本語研修を受けた後、美術館における作品の保存・修復技術などを研究するために当館に滞在した。

滞在期間

2004年11月24日～2005年2月4日

修復家と意見交換したり、九州国立博物館を見学し、保存・修復方針や設備を实地調査するなど、熱心に活動研究に取り組んだ。

□おもな活動

- 12月 9日 修復家の森京子さんから5回の講義を受け、作品の保存・修復について様々な意見交換をおこなった。
- 12月20日 九州国立博物館を施設見学し、担当者から保存・修復について話をうかがった。



アジア楽市楽座2005 アートで遊ばん?



〔予定〕

日時 3月20日(日) 11:00～19:00  
会場 博多リバレイン アトリウムガーデン(5階)

「アジア楽市楽座」は太閤町割りのころに楽市楽座で賑わった博多部の反映を模し、会場の博多リバレインに市をたて、アジアのアートや文化を体感してもらおうアート・フェスティバルとして毎年開催している。

6年目となる今回も例年と同じくアジア・アート・フリーマーケットを中心に、アジアからアーティストを迎えて、観衆が参加できるワークショップを企画していた。また、今回は地元のアーティストたちが多数参加し、ワークショップやパフォーマンス、コンサートなどの多彩なプログラムで、この地域交流イベントを大いに盛り上げる予定だった。

しかし、開始7分前に発生した「福岡県西方沖地震」によって、「アジア楽市楽座2005」は中止を余儀なくされた。

予定プログラム

- アジア・アート・フリーマーケット
- ワークショップ
  - ハマ・ウパディヤイ(インド)「本気で遊ぼう」
  - タウィーサク・シートンディー(タイ)「ヒーロー」
  - サリタ・ドンゴル(ネパール)「ネパールのお面を作ろう」
  - 原田俊宏(福岡)「しりとりの道」
  - 阿部浩二(大分)「カタヌキブレイク」
  - 津田三朗(福岡)「gravity」
  - 山出淳也(大分)「PROJECT No.22」
  - 武内貴子(福岡)「結ばれる縁路」
  - 岡山直之(熊本)「ちょっと変わった美術講座『まわる風景画家』」
  - OZAN(東京)「竹遊びーアジアの竹楽器、アングルンを作って演奏しよう!」
  - 平嶋呂州(福岡)「葛筆づくり&書画ワークショップ」
- ステージ・イベント
  - OZAN&バンブーシンフォニア(東京)「竹響コンサート」
  - 平嶋呂州(福岡)「書のパフォーマンス」
  - 實松亮(福岡)ほか「Surroundings Surrounded～環境を囲んで～」



地震後の様子

交流事業 3 ボランティア活動

前年度から半年間、研修を行ってきた案内・解説ボランティア17人が、4月から新しく案内解説ボランティアとしての活動をスタート。4月末にボランティアを対象に防災訓練を実施した。6月にボランティア通信編集ボランティアが「ボランティア通信vol.6」を発行した。9月にボランティア研修として、講演「公立ミュージアムの経営改革と評価—各地の事例を踏まえて」（上山

信一 慶應義塾大学教授）を行った。ボランティア催事ボランティアは、2005年1月に「台北ビエンナーレ」観覧ツアーを計画したが、希望者が最低催行人に充たなかったため中止となった。2月に隔年で行っているボランティア登録の更新を行い、195人が更新した。3月にボランティア総会を行い、今年度の活動や登録更新についての報告と意見交換などを行った。

活動内容		(H17年3月現在 登録者195人)
活動区分	活動内容	人数(人)
図書資料	図書資料の整理、データの登録など	36
学芸資料	学芸関連資料データの整理補助、新聞記事のスクラップなど	19
情報・ネット	他館の展覧会情報(郵送印刷物)の整理、ボランティア向けのメール配信など	26
案内・解説	アジアギャラリーの作品解説および施設案内	40
ボランティア通信編集	当館ボランティア向け印刷物(ボランティア通信)の編集、発行	10
ボランティア催事	ボランティア交流会、ボランティア研修会等の企画・実施	9
交流	滞在家・研究者の支援(制作補助、研究補助、語学補助)、イベントの支援	104
広報	美術館広報誌の発送、ポスター・チラシ等の配布など	25
		計 269 ※

※一人が複数のグループに所属して活動できるため、上記の人数はのべ数。

おもな活動

平成16年

- 4月 1日 学芸資料ボランティア活動開始、新聞スクラップ等の活動を行う(以後、各自月2回、各2時間以上活動)。案内・解説ボランティア、アジアギャラリーの作品解説を開始(以後、全開館日の午後1時から4時まで実施)。情報・ネットボランティア活動開始、チラシ・葉書の整理、ボランティアメールニュースの配信等を行う。
- 4月 3日 図書ボランティア活動開始。書架整理、三段ラベル、バーコードの貼付、寄贈印押印、配架等を行う(以後各自月2回、各2時間以上活動)。ボランティア通信編集ボランティア活動開始。「ボランティア通信vol.7」の校正等を行う(以後、原稿集めなど随時活動)。
- 4月 6日 広報ボランティア「あじびニュース16号」の発送作業を行う(以後、特別企画展開催ごとにポスター、チラシの発送作業等を行う)。
- 4月24日 ボランティア通信編集ボランティア、案内・解説ボランティア、月例ミーティング開催。
- 4月27日 ボランティア催事ボランティア・ミーティング開催。
- 5月15日 交流ボランティア・ミーティング開催。前期招聘美術作家、レカ・ロドウィツィヤとミョ・タン・アウンに滞在プランの説明を受け、サポートを開始、作品の素材集めや協力者探し、公開制作のサポートなどを行う(8月6日まで)。ボランティア催事ボランティア、歓迎会及び新規案内・解説ボランティア激励会を開催。
- 5月16日 ボランティア通信編集ボランティア・ミーティング開催。
- 5月22日 ボランティア通信編集ボランティア・ミーティング開催。「ボランティア通信vol.7」が完成、ボランティア全員に送付。
- 5月29日 交流ボランティア・ミーティング開催。招聘美術作家、リータ・マナングールに滞在プランの説明を受ける。
- 6月13日 図書ボランティア、図書閲覧室に特集コーナーを設置。
- 6月17日 案内・解説ボランティア、解説研修(「あじび動物園」ギャラリートーク、以後、アジアギャラリーの展示替えごとに実施)。
- 7月 2日 広報ボランティア「あじびニュース17号」の発送作業。
- 7月20日 ボランティア通信編集ボランティア・ミーティング開催。「ボランティア通信vol.8」の制作を開始、ボランティア活動についての意識調査を企画。
- 7月24日 案内・解説ボランティア・ミーティング開催。情報・ネットボランティア、懇親会を開催。
- 8月 7日 ボランティア催事ボランティア、前期招聘美術作家送別会を実施。
- 8月28日 ボランティア通信編集ボランティア、案内・解説ボランティア、月例ミーティング開催。

- 9月18日 交流ボランティア・ミーティング開催。後期招聘美術作家、ムン・キョンウォン、招聘研究者、カンハ・シクナウォン、アイリーン・リム滞在プランの説明を受け、サポートを開始(12月3日まで)。ボランティア催事ボランティア、歓迎会を開催。
- 9月25日 案内・解説ボランティア・ミーティングを開催し、月当番を2人から4人制に変更。ボランティア通信編集ボランティア、意識調査を実施。
- 10月 5日 広報ボランティア「あじびニュース17号」の発送作業。
- 10月 9日 ボランティア通信編集ボランティア・ミーティング開催。
- 10月23日 ボランティア催事ボランティア、案内・解説ボランティア、月例ミーティング開催。
- 10月31日 ボランティア通信編集ボランティア・ミーティング開催。
- 11月 8日 ボランティア催事ボランティア・ミーティング開催。
- 11月27日 案内・解説ボランティア・ミーティング開催。
- 12月 4日 ボランティア催事ボランティア、後期招聘者送別会及びボランティア忘年会を開催。「台北ビエンナーレ」研修旅行の参加募集を開始。
- 12月11日 ボランティア通信編集ボランティア・ミーティング開催。
- 12月18日 案内・解説ボランティア・ミーティング開催。情報・ネットボランティア、忘年会を開催。

平成17年

- 1月11日 広報ボランティア「あじびニュース17号」の発送作業。
- 1月22日 図書ボランティア、お茶会を開催。
- 1月29日 ボランティア通信編集ボランティア、案内・解説ボランティア、月例ミーティング開催。
- 2月 3日 ボランティア登録更新通知を発送(2月末までに、回答を返送)。
- 2月26日 案内・解説ボランティア・ミーティング開催。
- 3月12日 ボランティア総会を開催。その後、交流ボランティア・ミーティング、「アジア楽市楽座2005」の担当グループを決め、プログラムごとに随時準備作業を行う(3月19日まで)。「第3回福岡アジア美術トリエンナーレ2005」のサポートについて説明。
- 3月20日 交流ボランティア、広報ボランティア、「アジア楽市楽座2005」のサポートを行う。ワークショップの補助、フリーマーケットの出店、本部の案内、チラシ配布等の準備を行うが、開催直前に起きた福岡県西方沖地震のため、中止となった。
- 3月26日 案内・解説ボランティア・ミーティング開催。ボランティア通信ボランティア、案内・解説ボランティア、月例ミーティング開催。

交流事業 4 広報活動

あじびニュース

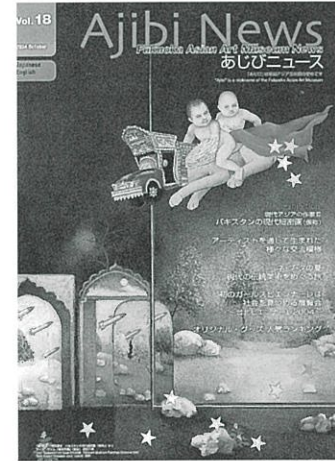
vol.16 2004.4.1発行  
 ■2004年度開催の展覧会ダイジェスト  
 ■2004年度レジデンス・プログラムの紹介  
 ■開館5周年記念イベント開催  
 第3回福岡トリエンナーレへの道①  
 ■タイ編ーバンコク、カフェという美術基地  
 アーティスト・研究者が語るアジアの今  
 ■福岡で巡り会った友との再会  
 変わらぬ友情、変わりゆく表現……  
 アジ美研究所  
 ■7階・美術情報コーナーの利用法  
 ボランティア  
 ■案内解説ボランティアへの道



vol.17 2004.7.1発行  
 ■チャイナ・ドリーム 描かれた憧れの中国ー広東・上海  
 ■シルクロードの装いーパル・コレに花開いた遊牧の民の美ー  
 前期レジデンス・プログラム  
 ■作品に込められた3人それぞれの思いに大接近!  
 第3回福岡トリエンナーレへの道②  
 ■パキスタン・インド編ーハイテク都市の「まちがい探し」  
 アーティスト・研究者が語るアジアの今  
 ■ラフィさんに芽吹いた交流の種、教育への関心  
 アジ美研究所  
 ■ホームページがリニューアル



vol.18 2004.10.1発行  
 ■現代アジアの作家Ⅲ パキスタンの現代細密画(仮称)  
 ■アーティストを通して生まれた様々な交流模様  
 第3回福岡トリエンナーレへの道③  
 ■ネ・ブ・タの夏ー現代の伝統美術をめぐる旅  
 アジアン・トピック  
 ■初のガールズビエンナーレは社会を見つめる展覧会  
 ～台北ビエンナーレ2004～  
 アジ美研究所  
 ■オリジナルグッズ 人気ランキング



vol.19 2005.1.1発行  
 ■AniMate. アニメイト  
 ■大唐王朝女性の美  
 ■タン・チンクアン 青い夜  
 後期レジデンスプログラム終了  
 ■福岡での滞在がもたらしたものは…?  
 第3回福岡トリエンナーレへの道④  
 アーティスト・研究者が語るアジアの今  
 ■経験を培い、それを糧に飛躍していく 真摯な姿勢  
 アジ美研究所  
 ■あじびホール利用のススメ



規格  
 A4 8ページ  
 編集/発行  
 福岡アジア美術館  
 企画・編集 CBX  
 デザイン 山口紗輝

新所蔵作品



新所蔵作品

新所蔵作品数 H16年度

	購入	寄贈	合計
絵画	35	—	35
版画	20	5	25
彫刻	—	—	—
写真	2	—	2
その他	—	—	—
合計	57	5	62

新所蔵作品一覧

1 リー・ムバイ(李慕白) 空軍の英雄長城(ジャン・ジーホエ) と朝鮮の子供 1950 版画 オフセット・紙 76.7×53.5 中国	7 ジン・メイション(金梅生) 新中国の歌声 1950 版画 オフセット・紙 51.3×75 中国	14 シエ・ジグワン(謝之光) 毛沢東主席を熱愛す 1955 版画 オフセット・紙 77.4×53.2 中国
2 リー・ムバイ(李慕白) おめかし 1956 版画 オフセット・紙 77.3×53 中国	8 ジン・メイション(金梅生) 豊作 1958 版画 オフセット・紙 77.4×53.2 中国	15 ジン・ジャオファン(金肇芳) 輝かしい模範労働者 1954 版画 オフセット・紙 77.4×53 中国
3 リー・ムバイ(李慕白) 宋副委員長が新中国の新世代 を愛護する 1958 版画 オフセット・紙 54×78.5 中国	9 ジン・シュエチエン(金雪塵) 拜月記 1963 版画 オフセット・紙 53×77 中国	16 シン・リーリヤン(忻礼良) 農村の新しい眺め 1951 版画 オフセット・紙 53.3×77 中国
4 リー・ムバイ(李慕白) 釣り 1958 版画 オフセット・紙 78.4×46.2 中国	10 ジャン・ピーウ(張碧梧) 余った農作物を国家に売ろう 1954 版画 オフセット・紙 77×53 中国	17 シン・リーリヤン(忻礼良) 中華人民共和国万歳 1958 版画 オフセット・紙 77×53.3 中国
5 リー・ムバイ(李慕白)、 ジン・シュエチエン(金雪塵) 湖に遊ぶ 1962 版画 オフセット・紙 77×53 中国	11 ジャン・ピーウ(張碧梧) 鴨の世話 1955 版画 オフセット・紙 77.3×53.2 中国	18 シン・リーリヤン(忻礼良)・ ジャン・ピーウ(張碧梧) たわわに実った蜜柑 1958 版画 オフセット・紙 77×53 中国
6 リー・ムバイ(李慕白)、 ジン・シュエチエン(金雪塵)、 ジャオ・グアンユン(邵観雲)、 ウ・ジュフ(呉哲夫)、 シュ・ジーピン(徐寄萍)、 ジャン・ダーシン(張大) 身体を鍛えて増産を目指そう 1954 版画 オフセット・紙 77.7×53.8 中国	12 ウエイ・インジョウ(魏瀟洲) 国慶節の朝 1955 版画 オフセット・紙 77×53 中国	19 ワン・リュウイン(王柳影) 供給販売協同組合がまた新し い農具を送ってきた 1958 版画 オフセット・紙 54.4×77.8 中国
	13 ウエイ・インジョウ(魏瀟洲) 一本の花に一つの心 1958 版画 オフセット・紙 53.2×76.8 中国	20 ウ・ジュフ(呉哲夫)、 ホワ・シーユエ(華西岳) バイクの運転を習う 1958 版画 オフセット・紙 77×53 中国

21 リー・ムバイ(李慕白) 平和への愛 1958 版画 オフセット・紙 77.4×53.1 中国(寄贈)	33 ウ・キン・マウン マンダレー 1960年代 絵画 油彩・画布 68.2×91.2 ミャンマー	45 アミール・ダンゴル ヴァスダーラー(持世菩薩) 2004 絵画 木炭、ポスターカラー・画布 47×36 ネパール	57 ムハマド・イムラン・クレシ もっとよくしよう 2001 絵画 グワッシュ・ワスリ紙、額装した 複製画 29.2×45.4 パキスタン
22 ウエイ・インジョウ(魏瀟洲) お父さんは仕事に、私たちは学校へ 1954 版画 オフセット・紙 78.8×54.7 中国(寄贈)	34 ボー・オ・テ 女性像 1966 絵画 油彩・画布 66.5×44 ミャンマー	46 ディベンドラ・シークワル アルヤ・ターラー(賢聖多羅) 2004 絵画 ポスターカラー・画布 52.2×41.7 ネパール	58 ムハマド・ジーシャ バナナと銃 I 2004 絵画 グワッシュ、茶のしみ、金箔・ワ スリ紙 11.5×16 パキスタン
23 ウエイ・インジョウ(魏瀟洲) 姑と嫁、一緒に学ぶ 1955 版画 オフセット・紙 77.3×53 中国(寄贈)	35 サン・ミン 競争 2003 絵画 アクリル・画布 117×178 ミャンマー	47 アーサン・ジャマル 困まれて 2003 絵画 グワッシュ・ワスリ紙 6×6 パキスタン	59 スラ・ラティフ・クレシ 単純な声明 2004 絵画 アクリル、石墨・イラストボード 45×55 パキスタン
24 ジャン・ユウチン(章育青) 野菜を運ぶチーム 1956 版画 オフセット・紙 77.5×52.2 中国(寄贈)	36 ハリー・ビーリス マーガレット・デ・ソイサの肖像 1926 絵画 油彩・画布 60.5×51 スリランカ	48 アイシャ・マリヤム・ドゥラニ 名誉の名のもとに 2004 絵画 グワッシュ・ワスリ紙 16×21 パキスタン	60 スラ・ラティフ・クレシ 複雑な物語 2004 絵画 アクリル、グワッシュ、石墨・イ ラストボード 45×55 パキスタン
25 ヤン・フルウ(楊福如) 合作化の道を行く 1956 版画 オフセット・紙 77.2×53.1 中国(寄贈)	37 ライン・シン・バンデル 昔を思う 1954-59 絵画 油彩・画布 99.5×64.5 ネパール	49 ファーヒーン・マクスード 編む 2003 絵画 グワッシュ・ワスリ紙 15.3×21.5 パキスタン	61 サイラ・ワシム 運 2004 絵画 グワッシュ・ワスリ紙 20.2×12.5 パキスタン
26 ホン・ハオ(洪浩) わたしの物 2 2001-2002 写真 119.4×209.8 中国	38 クリシュナ・マナンダール 水の元素 1975 絵画 油彩・画布 125×139 ネパール	50 ハビバ・カーン 成長する関係2 2004 絵画 グワッシュ・ワスリ紙 27×18 パキスタン	62 タルハ・ラトール 彼らは私たちにこうなるはずだ と言った 2002 絵画 グワッシュ、コラーージュ、スタンプ、 金・ワスリ紙 34.3×48.3 パキスタン
27 ホン・ハオ(洪浩) わたしの物 8 2003 写真 119.4×209.8 中国	39 シャシ・カラ・ティワリ 季節が変わる時 1996 絵画 油彩・画布 94×89 ネパール	51 ハスナット・マームード 混沌の時代の愛 2004 絵画 ミクストメディア・ワスリ紙 38×26 パキスタン	
28 クァク・インシク(郭仁植) 作品62-505 1962 絵画 金網入りガラス、布 22×92 韓国	40 ロク・チトラカール ヘーヴァジュラ・マンダラ (呼名剛曼荼羅) 1998 絵画 顔料・画布 96×78.3 ネパール	52 ハスナット・マームード カラスの会議 2004 絵画 グワッシュ、茶のしみ、鉛筆・ワ スリ紙 24×30 パキスタン	
29 ヴィセンテ・マナンサラ ファン・ルナの「血の同盟」 1962 絵画 油彩・画布 86×168 フィリピン	41 ディーバック・クマール・ジョシ ヴァジュラヨーギニー(金剛唵伽女) 2003 絵画 顔料・画布 63.8×48.8 ネパール	53 カディム・アリ 大砲と天使 2004 絵画 グワッシュ・ワスリ紙 18.5×27.5 パキスタン	
30 サヤ・ミョ 王室の肖像 19c末-20c初 絵画 油彩、他・画布 66.0×70.5 ミャンマー	42 ディーバック・クマール・ジョシ アルヤアヴァロキテーシュヴァラ (聖観音菩薩) 1994 絵画 顔料・画布 54.2×39.3 ネパール	54 マーリーン・アシフ・ズベリ しわ2 2004 絵画 グワッシュ・ワスリ紙 20×21 パキスタン	
31 サヤ・ミツ ナツ王 1953年頃 絵画 不透明水彩・布 77.2×72 ミャンマー	43 ウダイ・チャラン・スレスタ ドゥマバティ 2004 絵画 水彩・画布 32×24 ネパール	55 マーウィッシュ・カムラン・チシティ 中に入る、外に出るⅢ 2004 絵画 グワッシュ・ワスリ紙 17.5×12.5 パキスタン	
32 サヤ・ミツ 牛車 1953年頃 絵画 不透明水彩・布 73.7×101.3 ミャンマー	44 マヘンドラ・ダンゴル パドマバーニ・アヴァロキテーシ シュヴァラ(蓮華手観音菩薩) 2004 絵画 顔料・画布 73.5×55 ネパール	56 マリヤム・イルファン・ウッラ・カーン R.S.V.P. I 2003 絵画 グワッシュ・ワスリ紙 15.5×10.5 パキスタン	番号 制作者 タイトル 制作年 ジャンル 素材 サイズ(高さ×幅cm) 制作地

新所蔵作品



ヴィセンテ・マナンサラ  
フアン・ルナの「血の同盟」  
1962  
絵画 油彩・画布  
86×168 フィリピン



サン・ミン  
競争  
2003  
絵画 アクリル・画布  
117×178 ミャンマー



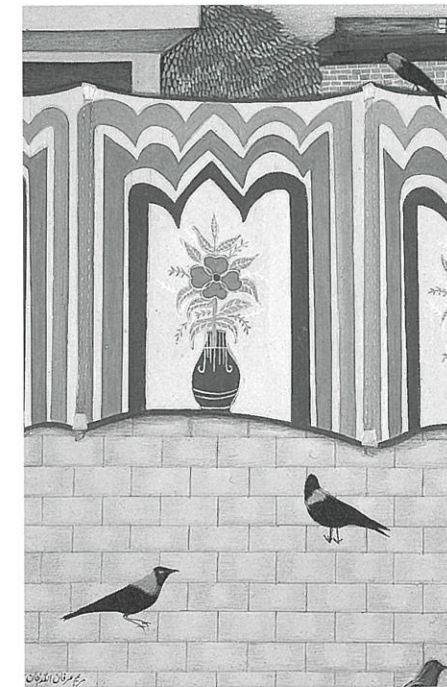
ジン・ジャオファン(金肇芳)  
輝かしい模範労働者  
1954  
版画 オフセット・紙  
77.4×53 中国



ライン・シン・バンデル  
昔を思う  
1954-59  
絵画 油彩・画布  
99.5×64.5 ネパール



ロク・チトラカール  
ヘーヴァジュラ・マンダラ(呼金剛雙蓮羅)  
1998  
絵画 顔料・画布  
96×78.3 ネパール



マリヤム・イルファン・ウッラ・カーン  
R.S.V.P. I  
2003  
絵画 グワッシュ・ワスリ紙  
15.5×10.5 パキスタン

入館者数

年度別入館者数

年度別	開館日数	常設展	特別企画展	貸館展覧会等	合計	1日平均
10年度	22		22,250		22,250	1,011
11年度	242	38,530	149,395	70,336	258,261	1,067
12年度	309	66,421	118,677	106,529	291,627	944
13年度	302	29,632	15,330	186,987	231,949	768
14年度	301	45,472	71,375	40,452	157,299	523
15年度	307	56,623	167,353	64,827	288,803	941
16年度	305	39,828	37,815	81,015	158,658	520
累計	1,788	276,506	582,195	550,146	1,408,847	788

月別入館者数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	11,636	17,116	8,666	14,377	10,790	11,720	13,217	16,474	12,262	18,251	17,683	6,466	158,658

あじびホール月別使用状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	2	7	12	10	6	9	6	15	6	2	6	6	87
人数	129	657	757	707	426	2,141	675	1,790	376	94	480	449	8,681

あじびホール年度別使用状況

年度別	件数	人数
10年度	21	1,730
11年度	110	8,480
12年度	106	9,682
13年度	58	8,834
14年度	50	5,849
15年度	70	7,353
16年度	87	8,681
累計	502	50,609

あじびホール使用状況内訳

催物別	件数	人数
講演会	24	2,366
セミナー	3	175
アーティストトーク	6	416
ワークショップ	3	129
映画	20	2,675
演劇	2	230
音楽	2	123
落語	3	320
審査会	1	85
ボランティア研修会	11	391
その他	12	1,771
合計	87	8,681

常設展・特別企画展

展覧会名	開催期間	日数	計	有料観覧者数				無料観覧者数			日平均	
				小計	一般	高・大	小・中	小計	小・中	その他		
常設展		304	39,828	27,447	23,987	3,460	0	12,381	1,820	10,561	131	
特別企画展	シルクロードの装い	7月 3日- 8月24日	46	10,174	7,628	6,135	1,493	0	2,546	487	2,059	221
	チャイナ・ドリーム	9月 4日- 10月17日	38	9,304	6,108	5,406	702	0	3,196	673	2,523	245
	大唐王朝 女性の美	1月 2日- 2月20日	43	18,337	10,058	9,376	476	206	8,279	170	8,109	426
合計		127	37,815	23,794	20,917	2,671	206	14,021	1,330	12,691	298	

貸館展覧会等 7階企画ギャラリー

企画展名	開催期間	日数	観覧者数	内容等
アンティーク・ビスクドールの世界展	3月20日- 5月 5日	31	13,533	ビスクドール、ドールハウスなど当時の生活や物語を想起させてくれる数々の作品を展示
第33回福波展	5月13日- 5月18日	6	1,665	会員・推薦出品者・海外招待作家による絵画作品を約130点展示
第21回日中水墨画合同展	5月20日- 5月25日	6	2,811	全国の協会会員作品と公募による作品、中国著名作家の新作など、額装280点・軸装80点展示
第5回FCPC写真教室作品展	5月27日- 6月 1日	6	1,104	FCPC写真教室の受講生による作品展で、モノクロ・カラー作品を約200点展示
姚明中国現代水墨画書道展	5月27日- 6月 1日	6	660	モノクロン水墨画に多色の顔料を使ったカラフルな作風の書画を約40点展示
日中韓・高校生の国際交流美術展	6月 3日- 6月15日	12	2,161	筑陽学園創立80周年記念行事としての日中韓高校生の国際交流美術展
シボロコミュニティ合同展	6月17日- 6月27日	10	1,789	藍染め・草木染め・テキスタイル・タピストリーなどの作品を約120点展示
第19回国民文化祭・ふくおか2004 第19回アジア国際美術展	10月30日- 11月14日	14	4,232	サブテーマ「きそいあい むつみあう アジアの美術」で国内・アジア諸国の公募展
「知られざるロバート・キャバの世界」展	11月19日- 12月19日	27	12,261	キャバの偉大な業績の紹介とキャバの作品や書簡写真約200点、関係資料約50点を展示
もってこいの友情のかたち展	3月 7日- 4月 4日	25	3,147	日韓両国の若い世代(50歳以下)の作家によって構成される展覧会
合計		143	43,363	

貸館展覧会等 8階交流ギャラリー

企画展名	開催期間	日数	観覧者数	内容等
欧州の写真家が捉えた日本の明治	4月 1日- 4月20日	18	993	フランス国立東洋博物館所蔵の日本の古写真を展示
第3回九州のグラフィックデザイナー12名によるポスター展	4月22日- 4月27日	6	552	2002年結成されたグラフィックデザイナー12名による作品展
庄司忠夫展	4月29日- 5月 4日	6	450	白黒反転版画による「虚」のイメージから現実への疑問を提示する作品を10点展示
上野従子そめ花展	5月 7日- 5月11日	5	645	和紙や布を染色しそれを材料とした草花の造形作品を約50点展示
エネルギー展	5月13日- 5月18日	6	752	九州産業大学芸術学部教授3人による絵画・造形作品を20点展示
第21回日中水墨画合同展	5月20日- 5月25日	6	1,897	全国の協会会員作品と公募による作品、中国著名作家の新作など、額装280点・軸装80点展示
調重写真展	5月27日- 6月 1日	6	1,023	山野草・佐賀七山檜原湿原の花・海岸の花の3部門構成の写真展で約120点展示
日中韓・高校生の国際交流美術展	6月 3日- 6月15日	12	1,252	筑陽学園創立80周年記念行事としての日中韓高校生の国際交流美術展
写真新世紀福岡展	6月17日- 6月29日	12	1,546	新人写真家発掘・育成・支援を目的とした文化支援プロジェクトで公募受賞作品を展示
田原砂津子フックドラッグ展	7月 1日- 7月 6日	6	470	コスター・フックドラッグなど大小さまざまなキルト作品を約100点展示
博多祇園山笠写真展	7月 8日- 7月20日	12	2,808	数年かけて撮影してきた博多祇園山笠のモノクロ写真作品を約80点展示
日中友好児童絵画展	7月22日- 7月27日	6	1,806	日中両国の児童絵画展でその入選作品を展示
サラリーマンコレクション展	7月29日- 8月10日	12	269	近代日本の著名洋画家作品30点等、絵画を約60点展示
In Between	8月12日- 8月17日	6	298	日韓のデジタルプリント、ビデオ映像作品、版画作品を約30点展示
原田素子展	8月19日- 8月24日	6	339	絵画(抽象画)作品を12点展示
赤裸々に	8月26日- 8月31日	6	561	九州産業大学学生(付属高校も含む)・九州造形短期大学学生・OBのグループ展で約25点の作品を展示
第51回全国写真展覧会 第106回九州写真展覧会	9月 2日- 9月 7日	6	494	「日本の自然・文化財・暮らし・人物」等の部門での入賞作品を約150点展示
伝えたい日本の美 一五節句を祝うテーブルコーディネート展	9月 9日- 9月14日	6	775	食事・食の事柄を楽しむという見地からその空間美を追究しデザインした作品を展示
瑞の会展	9月16日- 9月21日	6	445	14名の会員による油彩画・水彩画を42点展示
写楽会水彩画展	9月23日- 9月28日	6	1,533	会員による水彩画・パステル・絵手紙など約100点展示
第19回水墨祥泉会展	9月30日- 10月 5日	6	1,574	水墨画・額装(10~30号)65点、水墨画・軸装15点展示
テオ・マヤニ人展	10月 7日- 10月19日	12	667	マレーシア女性テオと福岡在住女性マヤニとの二人展で、ドローイングとオブジェを約50点展示
第16回児記会水墨画・彩墨画展	10月21日- 10月26日	6	625	会員作品展で水墨画及び彩墨画を約100点展示
2004アジアデジタルアート大賞展	10月30日- 11月 7日	8	2,621	国内・アジア諸国のデジタルアート・デザインの普及を目的とした公募展で、大賞・優秀賞・特別賞・入選等の作品を展示
木下陽一写真展「天主堂物語」	11月11日- 11月23日	12	3,455	九州の西洋建築黎明期を代表する教会建造物の写真を約60点展示
一夢思考-中野洋一油彩個展	11月25日- 11月30日	6	435	油彩画を約40点展示
第4回九州グラフィックデザインコンテスト2004	12月 2日- 12月 7日	6	657	九州観光のあしたを探るポスター展で受賞・入選作品100点、会員作品40点を展示
第16回MOA美術館児童画展	12月 9日- 12月14日	6	1,128	小学生を主にした全国児童絵画作品公募展で入選作品120点展示
第19回福岡市中学校美術部合同作品展	12月16日- 12月21日	6	293	福岡市内中学校美術部生徒による制作作品展で、絵画・デザイン・工芸・彫刻等を約130点展示
金板洙(キム・ハンスウ)作品展	1月 6日- 1月11日	6	315	立体造形・平面造形作品を約40点展示
韓国今昔写真展	1月13日- 1月18日	6	945	韓国1950~90年代の民衆生活などを写した作品を約100点展示
第5回上野野馬フォトコンテスト	1月20日- 1月25日	6	1,160	一般と中・高校生部門による全国公募展で入賞作品を71点展示
第6回博多区芸術作品展	1月27日- 2月 1日	6	552	博多区在住・通勤通学者の中から選考された日本画・水彩画・油絵・写真を展示
南北コリアと福岡のともだち展	2月 3日- 2月 8日	6	613	大韓民国・朝鮮民主主義共和国・日本と在日コリアンの子ども達の絵を展示
第10回福岡県幼児画展	2月10日- 2月13日	4	1,478	福岡県内の幼児(4~6歳児)450名分の絵を展示
Design Works 2005	2月17日- 2月22日	6	328	近畿大学産業理工学部建築・デザイン学科の卒業制作展で、約70点展示
九州大学芸術工学部画像設計 藤山・片山・松隈研究室作品展	2月24日- 3月 1日	6	387	絵画・写真・インスタレーション・映像作品等を15点展示
九州ビジュアルアーツ写真学科卒業制作展	3月 3日- 3月 8日	6	480	1人あたり4~10点の作品を約35名分展示
インターメディア・スペース2005	3月10日- 3月13日	4	171	九大大学院教授中村滋延と彼の研究室で学ぶ学生たちによるメディアアートの作品展
福岡教育大学大学院美術教育専攻終了展	3月17日- 3月22日	6	312	福岡教育大学大学院美術教育専攻終了展で約50点展示
第19回佐賀県立有田産業大学卒業制作展	3月24日- 3月29日	6	455	食器・照明器具・インテリア小物等を約180点展示
第3回現墨象展	3月31日- 3月31日	1	93	墨による抽象画を約100点展示
合計		292	37,652	

## 活動記録

## 平成16年

- 4月11日 台北市及び台南市美術館専門家訪問団  
一行来館
- 5月11日 招聘美術作家レカ・ロドウィツィヤ氏  
来日(8月9日まで滞在)
- 5月11日 招聘美術作家ミョ・タン・アウン氏来日  
(8月12日まで滞在)
- 5月18日 招聘美術作家リータ・マナダール氏  
来日(7月24日まで滞在)
- 6月 4日 カリフォルニア州立大学フラートン校  
及びサイプレス・カレッジ一行来館
- 7月 3日 「シルクロードの装い」開会式
- 7月15日 平成16年度 第1回美術館協議会
- 8月23日 釜山広域市長金丘鉉(キム・グヒョン)  
一行来館
- 9月 2日 香港歴史博物館総長ジョセフ・ティン氏  
来館
- 9月 4日 「チャイナ・ドリーム」展開会式
- 9月 7日 招聘研究者カンハ・シクナウォン氏来日  
(12月6日まで滞在)
- 9月 8日 招聘美術作家ムン・キョンウォン氏来日  
(12月7日まで滞在)
- 9月 9日 招聘研究者アイリーン・リム氏来日  
(11月28日まで滞在)
- 9月 9日 講演会「公立美術館の経営改革と評価」  
開催
- 9月18日 福岡アジア文化賞受賞国大使等来館  
インド  
マニ・トリパティ大使  
ネパール  
ラマシュ・アナンダ・ヴァイデア大使  
スリランカ  
カルナーティラカ・アムヌガマ大使
- 10月28日 ラリットカラアカデミー会長夫婦来館
- 10月29日 皇太子殿下行啓
- 10月30日 「第19回国民文化祭・ふくおか2004『ア  
ジア美術』」開会式
- 11月24日 招聘研究者グエン・マイ・ハイ氏来日  
(2月4日まで滞在)
- 11月26日 「パキスタンの現代細密画」ゲストキュ  
レータ ヴァージニア・ワイルス氏来館
- 12月 2日 「パキスタンの現代細密画」開会式
- 12月 2日 平成16年度 第2回美術館協議会
- 12月25日 平成16年度 美術資料収集審査会
- 12月25日 仕事納め(12月26日～1月1日まで休館)

## 平成17年

- 1月 2日 「大唐王朝 女性の美」展開会式
- 2月 3日 「AniMate。」開会式
- 3月20日 「アジア楽市楽座2005」開催予定だったが、  
開催時刻7分前  
つまり 午前10時53分震度6弱の「福岡西  
方沖地震」発生により中止となった。

概

要



アジア美術の独自の創造を目指す一助とするため、

アジア近現代美術を通して人々が集い、

互いに理解し、創造、発信するアジア美術の交流の場とする。

また、世界的に有数の質の高いアジア近現代美術作品の集積を生かし、

展示、収集のみならず、日常的なアジアとの交流、

調査研究活動を積極的に展開するとともに、

アジアの芸術家や研究者等と日本の芸術家、研究者、

市民が互いに創り、学びあうことにより、

新たな創造と相互理解を促す機会を提供する。

## 1 基本理念

## 2 活動内容

### 1 美術交流・研究事業

アジアの作家や研究員等を福岡に招聘し、美術館でライブの創作活動を公開しながら、市民と一緒に作品を創作し、また、最新の研究成果を発信する等、多彩な美術交流事業を日常的に実施する。

#### (1) アジアからの滞在作家との交流事業

市民共同創作事業  
実技講座  
滞在制作展覧会  
滞在作家講演会

#### (2) 調査研究事業

国内外の研究者によるアジア近現代美術の作家、作品、美術史等の研究成果の発表として展覧会や講演会を企画、開催する。

#### 人材育成、支援

・アジアの美術作家や研究者等の支援、育成、協力(留学学会員受入れ、派遣等)

#### 地域交流

・アジア美術の背景にあるアジア文化について、多くの市民が気楽に参加し、アジアを身近に感じることができるイベントを開催する。

### 2 展示事業

#### (1) コレクション展示

収蔵品を展示することでアジア近現代美術の流れをたどり、また、ジャンル別やテーマ別にアジア美術作品を紹介する。

#### (2) 企画展示

特徴的なアジア近現代美術をシリーズで紹介する。

・近代美術シリーズ  
・現代アジアの作家シリーズ  
・アート 横断シリーズ  
・生活とアートシリーズ

#### (3) 特別企画展

アジア美術の最新動向を紹介する「福岡アジア美術トリエンナーレ」を3年毎に開催する。アジアのみならず、幅広い分野の特別企画展を主催、共催する。

### 3 収集事業

#### (1) 収集方針

アジア美術の独自性を示す優れた作品を、近現代を中心に収集する。

#### (2) 収集作品の対象範囲

##### 対象範囲

・バキスタン以東、モンゴル以南、インドネシア以北・以西

##### 対象とする時代範囲

・原則として、19世紀から現代までの近現代を中心とする時代。ただし、アジア近現代美術の流れを研究するうえで必要な近代以前の美術資料の収集も行う。

### 4 教育普及事業

#### (1) 美術情報コーナー

福岡アジア美術館で開催する様々な催し物の案内や収蔵品、展示作品の紹介、その他の特集コーナーを設け、アジア美術の理解を深める資料を提供する。

さらに、アジア全域にわたって美術を紹介するオリジナルの番組ビデオ「アジアの美シリーズ」を上映する。

#### (2) アジア美術紹介ビデオ、出版物等

アートビデオをシリーズで上映、また、収蔵品ガイドブックやニュースレター、インターネット等により教育普及を図る。

#### (3) あじびホール

美術交流事業や展覧会にあわせて、美術教育プログラム、講演会やシンポジウム等を開催する。また、ミニコンサートや小演劇、上映会等、文化・芸術活動を楽しむ機会を提供する。

### 3 施設概要

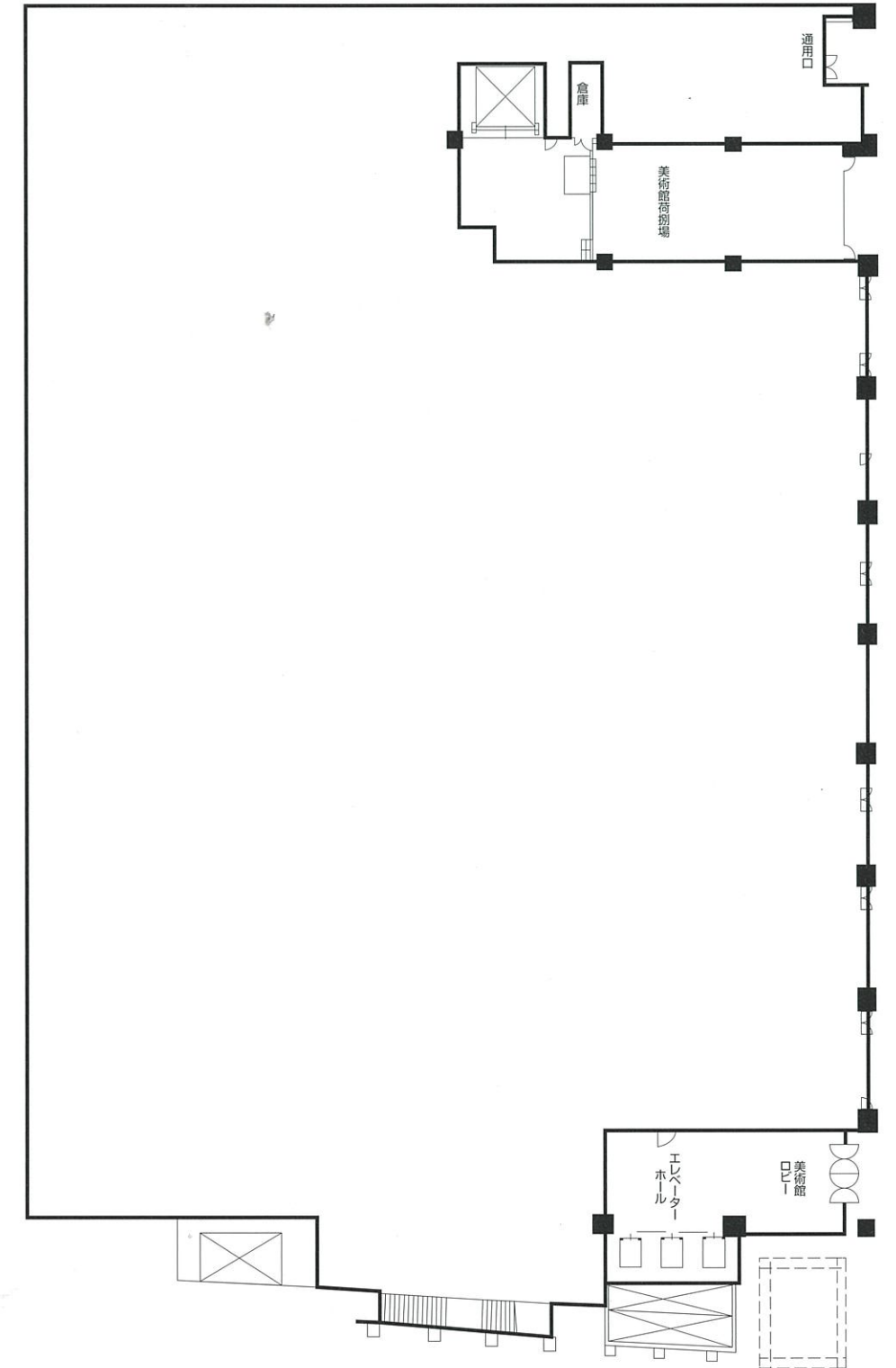
設置者 福岡市長  
 設立年月日 平成11年(1999)3月6日  
 名称 福岡アジア美術館  
 所在 福岡市博多区下川端町3番1号(博多リバレイン)  
 面積 建物面積151,595.91のうち区分所有  
 専有面積9,101.05㎡  
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 地下4階地上  
 13階のうち1階及び7階,8階  
 設計者 日建設計・観光企画設計社・都市未来ふ  
 くおか・西日本技術開発・設計共同企業体  
 取得額 保留床取得価額12,552,002千円

【各室面積表一覧】 (単位:㎡)

地下1階	61.69
1,2,3号EVピット	31.19
13号EVピット	30.50
<b>1階</b>	<b>398.34</b>
1,2,3号EV	47.47
13号EV	36.60
美術館ロビー	52.01
EVホール	50.97
美術館荷捌場	66.53
倉庫	11.24
搬入車路	133.52
<b>7階</b>	<b>4,233.33</b>
企画ギャラリー	1,004.58
物入(1)	8.77
控室	23.01
ロビー(2)	61.69
機械室(3)	131.18
チャンパー(機3)	28.43
EVホール	47.36
階段	19.43
荷捌室	110.95
通路	335.79
便所前室	12.05
便所(客・男)	22.40
便所(客・女)	31.84
便所(客・車)	5.84
ロビー(2)	214.10
展示機材庫	56.55
チャンパー	23.38
裏通路	37.40
M7F機械室	59.40
機械室(2)	92.33
アジアギャラリー	1,110.56
ミュージアムショップ	77.60
商品倉庫	20.38
美術情報コーナー	125.52
彫刻ラウンジ	516.24
コーヒースタンド	14.39
中8階ホール	42.16
<b>8階</b>	<b>4,407.69</b>
1,2,3号EV機械室	56.11
格納庫(1)	171.00
収蔵庫(1)	152.02
準備室	87.60
交流スタジオ	223.30
暗室(1)	9.90

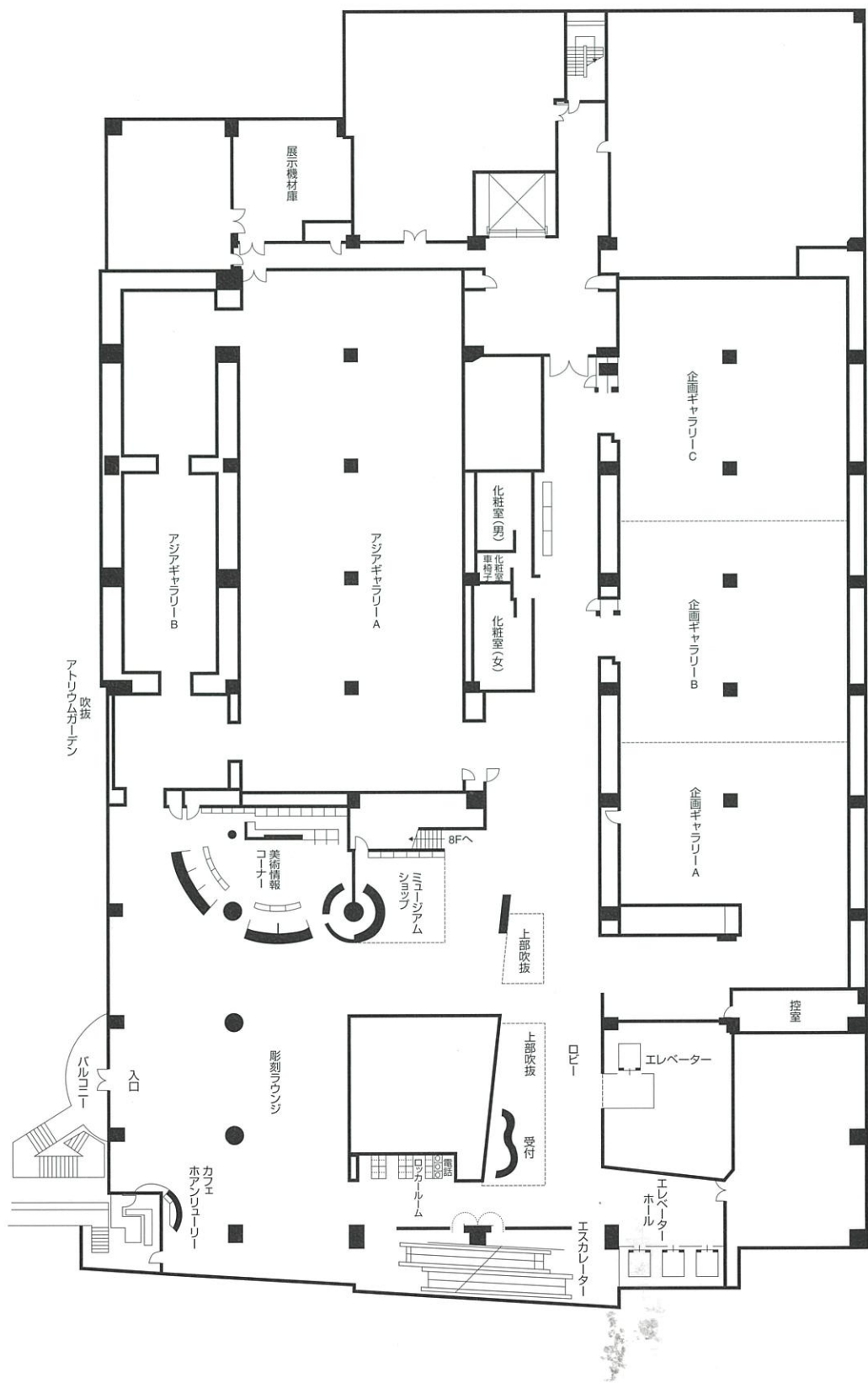
8階	倉庫(1)	23.70
	交流ギャラリー	369.54
	倉庫	19.11
	機械室(1)	128.96
	前室(機1)	26.13
	階段	14.82
	格納庫(2)	17.94
	撮影室	87.30
	暗室(2)	6.50
	便所(男・女)	7.02
	荷捌室	167.84
	警備室	14.85
	倉庫(2)	30.80
	あじびホール	159.53
	前室(あじび)	7.35
	前室(あじび)	5.39
	調整映写室	23.50
	ロビー	360.43
	収蔵庫(2)	252.27
	前室(収蔵2)	11.10
	機械室(4)	25.32
	映像資料室	35.20
	AVステーション室	52.49
	資料カード室	40.45
	学芸図書室	119.84
	図書閲覧室	44.14
	階段室	13.42
	便所(客・男)	18.44
	便所(客・女)	23.74
	便所(客・車)	6.77
	医務室	6.73
	授乳室	14.74
	便所(職・男)	17.54
	便所(職・女)	16.41
	女子ロッカー	14.24
	男子ロッカー	11.44
	給湯室	6.85
	物品倉庫	32.00
	印刷室	13.87
	監視員控室	30.88
	ボランティア室	45.95
	ミーティングルーム	41.02
	機械室(2)	22.87
	機械室(3)	144.90
	チャンパー(機3)	20.21
	倉庫(3)	22.20
	招待者用研究室(1)	32.76
	招待者用研究室(2)	32.79
	招待者用研究室(3)	32.79
	倉庫(4)	9.88
	会議室	122.63
	学芸研究室	81.75
	学芸・管理課	245.27
	館長室	41.48
	前室(館長)	8.53
	応接室(1)	30.33
	応接室(2)	35.92
	休憩室	21.59
	脱衣室	7.70
	シャワー室	2.00
	通路	135.81
	廊下	290.79
<b>合計</b>	<b>9,101.05</b>	

1F

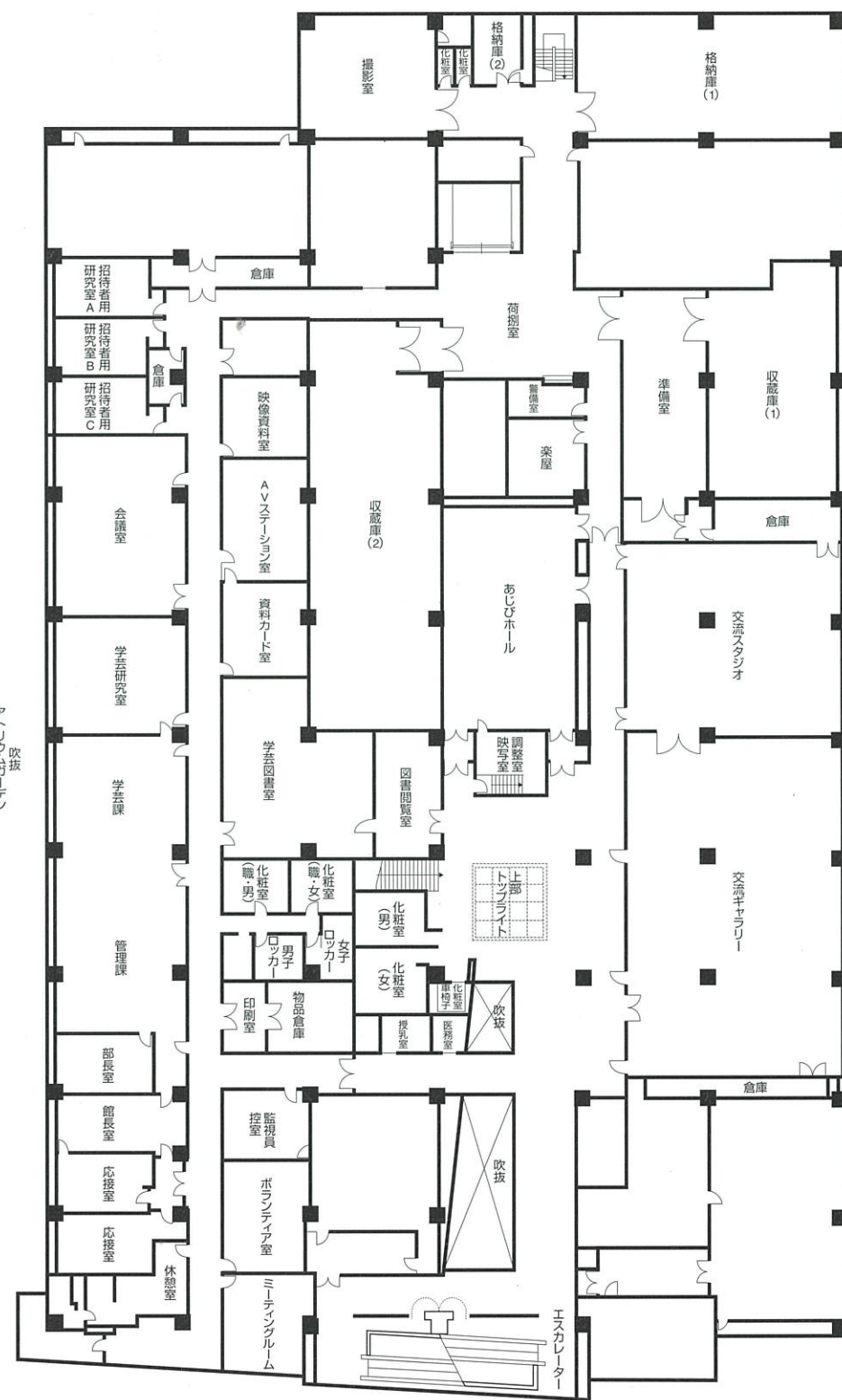


3 施設概要

7F



8F



## 4 沿革

- 平成 4年(1992) 6月 市長がアジア近代美術館の建設意向を表明
- 平成 5年(1993) 7月 アジア美術館整備構想委員会の設置、開催(答申までに2回開催)
- 平成 7年(1995) 2月 アジア美術館整備構想委員会の答申  
市長が下川端市街地再開発ビルでの設置を表明
- 平成 7年(1995) 3月 第1回アジア美術館建設専門委員会開催(開館までに7回開催)
- 平成 7年(1995) 4月 平成7年度当初予算に調査費を計上、福岡市美術館内に建設担当課の  
設置(1課2係4人)
- 平成 7年(1995) 11月 基本方針決定
- 平成 7年(1995) 12月 下川端地区市街地再開発組合と保留床売買に関する覚書を締結
- 平成 7年(1995) 12月 美術館用建物取得。一般会計補正予算、福岡市議会で原案可決
- 平成 8年(1996) 1月 下川端地区市街地再開発ビル起工
- 平成 8年(1996) 2月 第1回アジア美術館市民懇談会開催(開館までに5回開催)
- 平成 8年(1996) 3月 下川端地区市街地再開発組合と保留床売買契約書を締結
- 平成 8年(1996) 4月 建設担当課の増員(1課2係5人、参与及び担当部長の兼務発令)
- 平成 8年(1996) 8月 第1回アジア美術館資料収集審査会開催(開館までに4回開催)
- 平成 9年(1997) 3月 土地共有持分移転登記
- 平成 9年(1997) 4月 建設担当課の設置(2課3係8人)
- 平成 9年(1997) 7月 開館記念展「第1回福岡トリエンナーレ」(正式名称:第1回福岡アジア  
美術トリエンナーレ1999[第5回アジア美術展])実行委員会設立総会
- 平成10年(1998) 2月 正式館名を公募。「福岡アジア美術館」に決定  
(応募件数4,079点[2,775人])
- 平成10年(1998) 2月 開館記念展の国際協力者会議開催
- 平成10年(1998) 9月 福岡アジア美術館条例制定
- 平成10年(1998) 10月 建設工事完了 竣工検査
- 平成10年(1998) 12月 建築物引渡し
- 平成11年(1999) 1月 福岡アジア美術館へ組織変更  
(館長以下2課3係12人[嘱託5人]体制)、美術館へ事務所移転
- 平成11年(1999) 2月 建築物登記
- 平成11年(1999) 3月1日 博多リバレイン竣工式
- 平成11年(1999) 3月3日 福岡アジア美術館開館記念式典
- 平成11年(1999) 3月6日 福岡アジア美術館開館、博多リバレイン開業  
~6月6日 開館記念展「第1回福岡トリエンナーレ」開催
- 平成11年(1999) 5月 収蔵品を福岡市美術館から移転
- 平成11年(1999) 6月 収蔵品展示の開始
- 平成14年(2002) 3月21日 「第2回福岡トリエンナーレ」開催(6月23日まで)
- 平成15年(2003) 5月27日 観覧者100万人達成



上:「第6回アーティスト・イン・レジデンスの成果展 /パート1」に展示された  
ミョ・タン・アウン(ミャンマー)の作品とそれを見る博多小学校の児童たち  
下:公開制作場で九州大学学生からインタビューを受ける  
レカ・ロドウィッティヤ(インド)

名簿

福岡アジア美術館企画運営会議委員

富山 秀男	ブリヂストン美術館館長
陰里 鐵郎	女子美術大学大学院美術研究科教授
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
野口 郁子	福岡市男女共同参画推進センターアミカス館長
藤原 恵洋	九州大学大学院芸術工学研究院助教授

福岡アジア美術館美術資料収集審査会委員

乾 由明	兵庫県立陶芸館(仮称)開設準備委員長
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
後藤 新治	西南学院大学教授
ソボン・ロドボン	チェンマイ大学美術学部助教授(タイ)

福岡市美術館協議会(福岡アジア美術館を含む)

会 長	古川 智次	福岡大学教授
副会長	濱砂 圭子	育児情報誌編集長
委 員	青柳 昌治	福岡西陵高等学校長
	// 荒木 敏男	松崎中学校長
	// 石川 正知	財団法人福岡文化財団専務理事
	// 尾花 剛	社会福祉法人 花筏会理事 評議員
	// 片平 幸子	福岡市PTA協議会理事
	// 木戸 龍一	社団法人福岡県美術協会理事長
	// 京谷 啓徳	九州大学助教授
	// 小林 俊子	福岡市青少年団体連絡会議理事
	// 辻 芳子	福岡市老人クラブ連合会副会長
	// 中西 久吉	福岡市美術展運営委員
	// 錦織 亮介	北九州市立大学教授
	// 堀池 洋子	福岡市社会教育委員
	// 松尾 孝司	株式会社西日本新聞社専任職編集委員
	// 溝口 巖	能古小学校長
	// 龍 秀美	秀巧社印刷(株)外国語チームチーフディレクター

第3回福岡トリエンナーレ実行委員会

名誉会長	山崎 広太郎	福岡市長
特別顧問	青木 秀	(株)西日本新聞社相談役
会 長	安永 幸一	福岡アジア美術館館長
副会長	多田 昭重	(株)西日本新聞社社長
	// 石上 大和	RKB毎日放送(株)社長
委 員	宇田川 宣人	九州産業大学芸術学部学長
	// 大西 修也	福岡市美術館協議会会長
	// 木戸 龍一	(社)福岡県美術協会理事長
	// 後小路 雅弘	九州大学大学院人文科学研究科教授
	// 江藤 裕徳	博多リバレイン管理(株)総務部長
	// 東宮 照男	博多リバレイン・イニミニマニモ館長
	// 松本 大三郎	下川端管理組合運営審議会会長
	// 原 公志	上川端商店街振興組合理事長
	// 吉川 礼蔵	川端中央商店街振興組合理事長
	// 豊田 泰之	(株)西日本新聞社事業局長
	// 八坂 健	RKB毎日放送(株)事業推進局長
	// 岩瀬 信一郎	福岡市博多区長
	// 吉村 哲夫	(財)福岡市文化芸術振興財団副理事長
	// 藤原 繁雄	福岡市経済振興局集客交流部長
	// 日下部 喜通	福岡市総務企画局国際部長
	// 荒浪 聖	福岡アジア美術館事業管理部長
監 事	森本 稔	(株)西日本新聞社事業局企画事業部長
	// 永富 伸二	福岡市教育委員会総務課長

出品作家選考協議会

中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
毛利 嘉孝	九州大学大学院助教授
岡部 あおみ	武蔵野美術大学芸術文化学科教授
クオ・キエンチョウ(郭建超)	シンガポール美術館館長
サリマ・ハシム	ピーコンハウス大学 美術学部長・教授(パキスタン)

福岡アジア美術館職員

館 長	安永 幸一
事業管理部長	荒浪 聖
管理課長	野口 裕
管理係長	栗須 ひろ子
事務吏員	茅嶋 克之
事務吏員	成富 真弓
事務吏員	大木 良一
嘱託員	上山 真輝
嘱託員	松永 武彦
学芸課長	黒田 雷児
収集展示係長	ラフチャイクン 寿子
学芸員	山木 裕子
学芸員	五十嵐 理奈
交流係長	松浦 仁
学芸員	中尾 智路
嘱託員	荒川 芳弘
嘱託員	蒲池 昌江
嘱託員	高木 のぞみ
嘱託員	堀川 理沙

発行 2006年3月31日  
福岡アジア美術館  
福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8階  
URL: <http://faam.city.fukuoka.jp>  
デザイン マツダヒロチカ デザイン事務所  
印刷 瞬報社写真印刷株式会社  
著作権 福岡アジア美術館  
2006年(禁断転載)



この紙は地球環境保護のため、再生紙を使用しています。



福岡アジア美術館  
Fukuoka Asian Art Museum